

## 「美學・美術史論集」

【第24輯】	2026年3月 発行
安永 拓世	岩佐光晴教授の退任に寄せて
	岩佐光晴教授 略歴・主要業績
海老澤 るりは	京都・浄瑠璃寺吉祥天立像に関する一考察 —— 頭上の鳳凰・頭飾・髪型を中心に ——
菅野 龍磨	異国降伏と戒律のジレンマ —— 東京国立博物館所蔵・愛染明王厨子における焰魔天曼荼羅の意義 ——
村上 幸奈	熊本県下益城郡美里町 福城寺 木造天部立像(伝十一面観音菩薩立像)の作風に関する一試論
山田 美季	邪鬼に関する研究史の整理と課題
荒井 孝則	《研究ノート》 仮面の撮影方法について —— 神奈川県立歴史博物館「仮面絢爛」展を例に ——
安永 拓世	与謝蕪村筆「牛若丸弁慶図自画賛」(逸翁美術館蔵)の解釈に関する一試論
岡村 嘉子	《資料紹介》 日本彫刻寄贈者へのエミール・ギメの礼状 —— ラ・マルミットとの交流 ——
喜多崎 親	19世紀フランスにおけるフレスコ画の2側面 —— ルノワールの《大水浴》をめぐって ——
高橋 健一	牧人と王のあいだのノスタルジア —— プッサンの二つの「勝利者ダヴィデ」主題画をめぐって ——
山下 純照	《研究ノート》 R.インガルデン『文学的芸術作品』をナラトロジーの観点から検討する —— 描写された対象像の層を中心に ——
横道 仁志	ホラーと美学 —— 感性の反転作用をめぐる試論 ——
早川 恭只	坂口安吾における戦争 —— 「白痴」と「墮落論」をめぐって ——
内野 博子	光との語らい —— 遺影写真を観ることについての一考察 ——
小河原 あや	形態への眼差し —— エリック・ロメールの教育テレビ番組「ヴィクトル・ユゴー『静観詩集』5、6巻から ——
河合 大介	反意図主義の前史としての新批評
匂坂 智昭	アール・ブリュットの「誤解」「誤用」
柳川 太希	食べる体の記述 —— 意識を透明化して呼吸を継続することで自由に食べる ——
柳澤 広美	美意識における主体の自己変様 —— 木幡順三の「驚異」論 ——
大愛 崇晴	18世紀の音程比理論におけるシンメトリーへの志向 —— タルティーニニストラティコ師弟による自然7度の扱い ——
青田 麻未	美学の使命 —— 日常美学からみる津上英輔の美学 ——
津上 英輔	「引き際の美学」における「美学」の転義用法
	津上英輔教授経歴

赤塚 健太郎	斜め上の研究室 ——津上英輔教授の退任に寄せて——
<b>【第23輯】</b>	<b>2024年3月 発行</b>
岩佐 光晴	相澤正彦教授の退任に寄せて 相澤正彦教授略歴・業績
高橋真作	仲安真康筆「山水人物図」(東京国立博物館蔵)について
中島紀子	伝能阿弥筆「三保松原図」の復元的考察
清水亮佑	竹林七賢図についての一解釈——フリーア美術館所蔵本をめぐって——
田中伝	「上利劔」考
吉井大門	山川秀峰の版画制作について
野城今日子	資料紹介 北村西望の上中里・西ヶ原時代
川岸瀬里	能面の写しと能面研究の課題について
田中知佐子	資料紹介 大倉集古館所蔵の中国神像彫刻群について
清水友美	随想 洋画の「ゆくえ」を追う——「新たな時代のエトランゼ」展を通して——
篠原聰	横顔の美人画 鎬木清方筆《朝涼》をめぐり
高橋健一	若さとしての牧歌——ブッサンの《詩人の靈感》と文芸ジャンルの新旧の問題——
喜多崎親	喚起する類似——フェルナン・クノッフの《青い翼》と《白、黒、金》——
<b>【第22輯】</b>	<b>2020年3月 発行</b>
喜多崎 親	イタリア的自由人 ——石鍋真澄教授退任に寄せて—— 石鍋真澄教授 略歴・業績
石鍋 真澄	カラヴァッジョの《聖マタイ伝連作》をめぐる二、三の考察 ——制作年代、マタイ論争、拒否の理由——
相澤 正彦	「一遍聖絵」の入洛場面における絵画表現をめぐって
岩佐 光晴	創建期長谷寺の十一面観音像に関する覚書
赤塚 健太郎	バロック舞踏におけるフィギュール分析の試み ——対称性と平行性に着目して——
木村 建哉	American Entertainments' Triumph over/Incorporation of European Arts: In Case of <i>An American in Paris</i> (1951, Vincente Minnelli)
喜多崎 親	哀悼の神話 ——ギュスターヴ・モローの《オルフェウス》の戦略——
山下 純照	壊れていくクラインの壺 ——岩井秀人『おとこたち』にみる「舞台の語り」——
津上 英輔	メイ作エピグラム「フェッリスについて」
<b>【第21輯】</b>	<b>2017年3月 発行</b>
津上 英輔	「話す人を歌で摸倣する」 ——メイの古代悲劇像とペーリのレチタティーヴォ理論——
赤塚 健太郎	バロック時代のメヌエットの舞踏譜に記載された伴奏舞曲について ——ヴァイオリンの運弓法と、伴奏舞曲の出自の問題を踏まえて——
岩佐 光晴	京都・因幡堂薬師如来立像(因幡薬師)の造像背景に関する一考察
<b>【第20輯】</b>	<b>2013年3月 発行</b>

津上 英輔	序に代えて:ヨーロッパ紳士、小林義武
Kirsten BeiBwenger	Formpläne in weltlichen Kantaten Johann Sebastian Bachs
赤塚 健太郎	J.S. バッハのフランス風クーラントと舞踏の関わりについて
小宮山 晶子	リヒャルト・ワーグナー《ジークフリート》の成立をめぐって
筒井 はる香	内なる声が語るもの —シューマンの《フモレスケ》とフィスハルモニカ
津上 英輔	もう一つの『詩学』注釈:メイ筆ヴェットーリ宛手紙 2 通(1559 年)
Yoshiteru Yamashita	Das Fastnachtspiel von „Rumpold und Mareth“ als verdecktes Modell für das Lustspiel Der zerbrochene Krug von Heinrich von Kleist
木村 建哉	古典的ハリウッド・ミュージカルにおけるミュージカル・ナンバー 開始の演出:『雨に唄えば』(1952)を代表例として
石鍋 真澄	17 世紀美術におけるローマの役割
喜多崎 親	ラファエル前派と前ラファエッロ主義 — フランスとの関係を中心に
相澤 正彦	窪田統泰と桂林寺涅槃図
岩佐 光晴	止利仏師に関する研究史をめぐって
<b>【第19輯】</b>	<b>2011年3月 発行</b>
	千足伸行教授 略歴
津上 英輔	千足伸行、飄々男児
石鍋 真澄	ミケランジェロの《ダヴィデ》の設置場所
田辺 清	レオナルド・ダ・ヴィンチの《指さす女性》について — 主題と制作年代 —
石津 秀子	デューラーの著書『測定法教則』における“zwispalten”の意味
佐藤 仁	ベルニーニの蜜蜂: 教皇ウルバヌス8世をめぐるイメージ
新畑 泰秀	ニコラ・プッサン作《フローラの王国》再考: 制作の経緯と文学的源泉について
千速 敏男	レンブラントの《夜警》はピクチャレスクか: サミュエル・ファン・ホーフストラートの“schilderachtich van gedachten”をめぐって
渋谷 拓	フランスの絵画論における誇張の観念 —ド・ピール、C.-A.・コワペル、デイドロの場合—
村井 蓉子	18世紀スペインの啓蒙思想下におけるゴヤの女性像について
富岡 進一	聖性と俗性 —J.M.W.ターナー《サン・ゴタール峠》(1803-4年頃)の着想源と図像解釈—
富田 章	スーラの自画像
野田 由美意	1919-1920年代前半における読書を通じてのパウル・クレーとアジア・オリエント の関係
増子 美穂	ジョルジュ・ルオー 『ユビュおやじの再生』再考—黒人裸婦像を中心に
富澤 治子	バチカン・ミュージアム所蔵の生人形調査
佐藤 幸宏	藤田嗣治の初期風景画について —1910年代の作品を中心に—
田中 正史	1913—小杉未醒のヨーロッパ遊学について
金澤 清恵	大正期におけるモリス・ドニ受容 —田中喜作と黒田重太郎の批評と象徴主義理論の翻訳を中心に
熊谷 美和	フジタの描いたパリ ～『魅せられたる河』における挿画の考察～
住田 常生	清宮質文の「実在感」
岩井 美恵子	森正洋《平型めしわん》に見る陶磁器デザインの可能性
北谷 正雄	《振動尺》に至るまでの若林奮
今井 陽子	人形をめぐる幾つかの視点
中村 祐美子	永遠の光—截金師 江里佐代子
高島 麻子	高島華宵の子ども絵についての一考 ～アリスとの同質性をめぐって～
井野 功一	橋本雅邦の描いたデューラー
野地 耕一郎	近代初期日本画における印象派を含む西洋絵画表現の直接的受容(日本画家渡邊省亭の行跡から)
村木 敬子	宗存版『四部録』小攷—「十牛図」を中心に
<b>【第18輯】</b>	<b>2010年3月 発行</b>

相澤 正彦	発刊の辞
清水 眞澄	清水眞澄教授 略歴・業績
清水 眞澄	仏像の表象「白毫相」について
石鍋 眞澄	フィレンツェ・ルネサンスの素描
千足 伸行	シニャックとベルギー:20人会から「民衆会館」へ
山下 純照	夢幻能の精神分析的解釈について —金閨猛『能と精神分析』を下敷きとして—
津上 英輔	懐かしさとnostalgia:比較美学から感性史へ
小林 義武	バツハにおける楽中楽
<b>【第17輯】</b>	<b>2008年3月 発行</b>
Yoshitake Kobayashi	Preface
James R. BRANDON	Approved and Disapproved Kabuki and Neo-Classic Plays: December 1945
Ravi CHATURVEDI	Sufism: A Ground of Theatricality of Rituals and Religious Morality in Indian Theatre
Josette FERAL	The Dramatic Art of Robert Lepage:Fragments of Identity
Erika FISCHER-LICHTE	Bodies of the Future: On the Art of Acting around 1900
Solehah ISHAK	Translating and adapting Shakespeare to the Malaysian stage
Tomoko KUSUHARA SAITO	19世紀アメリカのポピュラー・シアター:生成期の minstrel・ショウ —演劇的仕掛けとアイデンティティ形成— The 19th-Century American Popular Theatre: Devices of the Minstrel Show and the Formation of National Identities
Meewon LEE	Ibsen and His Influences on the Early Modern Korean Plays of the 1920s
Christina NYGREN	Impressions from a Visit to the Takarazuka Revue: Theatre in the Parlours of Popular culture
Janelle REINELT	Tradition and Modernity in Mitsuya Mori's Double Nora
Willmar SAUTER	Aesthetic aspects of the theatrical event, or — what makes an event 'theatrical'? —
Jung-Soon SHIM	Feminism and Images of Women in Modern Korean theater
David WHITTON	Back to the Theatre of the Future: The Contribution of Theatre History to the Scenic Revolution
<b>【第16輯】</b>	<b>2004年12月 発行</b>
TSUGAMI Eske	Art as mimesis:Presenting a World / Representing the World
Gerald CIPRIANI	The Calm Movement of Phúsis Revealed: Representation and Presenting in the Still Life
KADOWAKI-SANO Yoko	Vision and Phúsis A Comment on "The Calm Movement of Phúsis Revealed" by Gerald Cipriani
Trond LUNDEMO	The Colour of the Invisible
KIMURA Tatsuya	The Haptic Mode of Vision and "Concrete Abstraction" (Abstraction by Contraction)
Deborah WONG	Listening:Ethnomusicology and Performance Studies
AKATSUKA Kentaro	The Distance between Performers and the Audience
Marina GRZINIC	Global Capitalism and the Genetic Paradigm of Culture
HAYAKAWA Kyoshi	Cloning in Art
MORI Mitsuya	The Representation of the World in Art
Frances CAUSER	W. H. Auden in the movies: a consideration of how successfully poems can be incorporated in films
NAKAJIMA Nanako	The Two Axes of the Performing Body, Vertical and Horizontal
SHIMBATA Yasuhide	Mythological Themes in Nicolas Poussin's Early Works:Reflections on Nymph Riding Astride Satyr
OGAWARA Aya	"Only he who is chosen chooses well or effectively" (Deleuze):The World View Cinematographically Conveyed in Ma nuit chez Maud
KAWAI Daisuke	Art and Philosophy Reconciled:Nietzsche's Apollonian in and after The Birth of Tragedy

<b>【第15輯】</b>	<b>2003年2月 発行</b>
	田中日佐夫教授最終講義
	田中日佐夫教授退任記念シンポジウム
	日本美術史における「近代」
田中 日佐夫	日本美術史における近代および現代考
<b>【第14輯】</b>	<b>2002年3月 発行</b>
東山 健吾	東山健吾教授 履歴・業績
東山 健吾	敦煌石窟における本生説話図の形式－「シュヤーマ本生」図を中心に－
外山 潔	敦煌148窟涅槃変相図について
謝 明良	古文獻所見陶器修補術
久野 美樹	龍門石窟擂鼓台南洞、中洞試論
八木 春生	雲岡石窟第三期諸窟についての一考察
小澤 正人	雲岡石窟第6窟上層龕 如来立像の製作についての一考察
長谷川 祥子	「青花雲龍文「春寿」瓶」考
小林 仁	洛陽北魏陶俑の成立とその展開
斎藤 龍一	中国雲岡石窟における中心柱窟の展開とその影響
清水 眞澄	鎌倉大仏の形姿と様式について－宋風との関わりを中心にして－
<b>【第13輯】</b>	<b>2001年3月 発行</b>
浅沼 圭司	「作者」と「語り手」－作業仮説としての、試論的断片－
津上 英輔	「大きな過ち」：アリストテレス『詩学』第13章における悲劇性
小林 義武	バッハにおける「ため息の動機」
千足 伸行	プリミティヴィズムと半植民地主義：エミール・ノルデの場合
Mitsuya Mori	Figure and Ground: An Essay on Interculturalism in Theatre
<b>【第12輯】</b>	<b>1999年3月 発行</b>
	シンポジウム
	芸術研究者の文体、またはその主観性と客観性をめぐって
浅沼 圭司	「本文」のない「前文」あるいは シンポジウムのまえとあと
宮川 達	芸術研究の普遍性をめぐる試論
佐野 陽子	シンポジウムを振り返って
津上 英輔	祭りの後で/後の祭り
毛利 三彌	イプセン初演前後(二)
	－明治期演劇近代化をめぐる問題(四)－
津上 英輔	ポエーティウス『音楽教程』におけるmusicaの概念
<b>【第11輯】</b>	<b>1997年7月 発行</b>
浅沼 圭司	「名人芸」について－芸術制作における近代－
津上 英輔	「この人はあの人だ」(アリストテレス『詩学』第4章)
	現実開示の途としてのミーメシス
千足 伸行	光は東方より－オリエンタリズム再考
<b>【第10輯】</b>	<b>1995年9月 発行</b>
上原 和	上原和教授年譜・著作等目録
戸口 幸策	上原先生を送る辞
	討論
	芸術の様式について
宮川 達	様式論の方法－現代芸術における様式概念研究の意義－
田中 日佐夫	日本美術史考察の基本的問題
	古代人の模倣と自然の模倣
津上 英輔	－ヴァンケルマン『ギリシャ人の絵画・彫刻作品の模倣についての考察』における自然の概念－
毛利 三彌	イプセン初演前後－明治期の演劇近代化をめぐる問題(三)－
千足 伸行	《黒衣の女》－ファン・ゴッホのメランコリーと死の意識
<b>【第9輯】</b>	<b>1992年3月 発行</b>
毛利 三彌	世紀末ヨーロッパ演劇とイプセン
八木 春生	「勝」についての一考察－「勝」と昇仙思想の関わりを中心として－
<b>【第8輯】 第1部</b>	<b>1991年1月 発行</b>
上原 和	敦煌莫高窟における「摩訶薩埵本生」図の諸相と玉虫厨子の「捨身飼虎」図
<b>【第8輯】 第2部</b>	<b>1991年1月 発行</b>

田中 日佐夫	吹田草牧—その人と作品と文章— 吹田草牧のヨーロッパからの書簡
<b>【第7輯】</b>	<b>1988年11月 発行</b>
毛利 三彌	イプセン以前(承前・川上音二郎のこと) —明治期の演劇近代化をめぐる問題(二)—
田中 日佐夫	土田麦僊のヨーロッパからの書簡(続篇)
	土田麦僊滞欧書簡—妻・千代宛絵葉書—
松尾 大	バウムガルテン『美学』訳注—その3—
Kosaku Toguchi	De l'utilisation des notae rubrae dans le manuscrit fonds italien 568 de la Bibliothèque Nationale de Paris
<b>【第6輯】</b>	<b>1987年7月 発行</b>
毛利 三彌	イプセン以前—明治期の演劇近代化をめぐる問題(一)—
田中 日佐夫	土田麦僊のヨーロッパからの書簡
	土田麦僊滞欧書簡—妻・千代宛封書—
<b>【第5輯】第1部</b>	<b>1985年5月 発行</b>
松尾 大	バウムガルテン『美学』訳注—その2—
<b>【第5輯】第2部</b>	<b>1985年5月 発行</b>
謝 明良	唐三彩の諸問題
<b>【第4輯】第1部</b>	<b>1984年8月 発行</b>
浅沼 圭司	作者、その生と死—ロラン・バルトの所説をめぐる—
松尾 大	バウムガルテン『美学』訳注—その1—
<b>【第4輯】第2部</b>	<b>1984年8月 発行</b>
田中 日佐夫	土田麦僊の野村—志あて書簡
	土田麦僊書簡
<b>【第3輯】</b>	<b>1982年6月 発行</b>
安田 治樹	唐代則天期の涅槃変相について(下)
毛利 三彌	演劇のリアリズム—後期イプセン論のための覚書—
<b>【第2輯】</b>	<b>1981年9月 発行</b>
鄧 健吾	敦煌莫高窟彩塑の展開
安田 治樹	唐代則天期の涅槃変相について(上)
田中 日佐夫	大和を中心とした開基伝承と古代美術 —日本古代美術の地域社会的基礎構造序論—
<b>【第1輯】</b>	<b>1980年3月 発行</b>
浅沼 圭司	文学における領域的二元性(一) 象徴としての作品の構造
毛利 三彌	戯曲のよみかた
松尾 大	悲劇の経験に於ける〈 $\tau\omicron\theta\alpha\upsilon\mu\alpha\sigma\tau\acute{o}\nu$ 〉の問題 —Aristoteles. Poetica 1452a1~6—
千足 伸行	ロマン主義絵画と崇高の美学